

1 学校教育目標	
・豊かな心と学ぶ意欲をもち 広い世界で たくましく生きる生徒	
2 重点目標・努力目標	3 前年度の成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・学ぶ意欲が向上する学校。 ☆自ら学び【基礎学力】 主体的・対話的で深い学びの追究 基礎・基本の習得と活用 一人一人のフォローアップ充実 ・豊かな心、美しい心の育成をする学校。 ☆心豊かに【規律ある生活】 美しい環境が整った学校を想像する 読書活動充実 特別活動の充実（学級活動・行事・部活を通して） 特別の教科道徳の授業の充実 （ローテーション授業・評価） ・心身が健康で、たくましい生徒の育成。 ☆たくましく【健康・体力】 健康教育、安全教育、防災教育の推進 生徒指導・教育相談の充実 ・中学校区の幼保小中の連携を図る。 ☆「学び」と「心」【子ども教育連携推進】 	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教職員が、学校教育目標の具現化をめざし、基礎基本の徹底、主体的対話的深い学び授業改善、フォローアップの徹底に取り組み、指導力向上・学力向上を進めていくことができた。 ○小中一貫教育を、乗り入れ授業や行事の交流を中心に進めることができた。 ○不登校の生徒を少しでも解消できるように、保護者や関係機関と連携を密にし、改善が図られた。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「主体的・対話的で深い学び」について、さらに研鑽を積み、道徳授業の質の向上を図る研修を深める必要がある。 ●緊急事態宣言を受けて休校、部活動停止や授業での制限など、新たな事態を受けての子どもの学力や体力の維持など指導の研修が必要である。

4 評価表 ※評価基準〔A：十分達成している B：おおむね達成している C：やや不十分である D：不十分である〕				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学 校 運 営 に 関 す る も の	①組織運営	<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○学校経営方針を徹底させるために、職員会議、朝の打ち合わせ等で教職員に周知徹底を図るとともに校長室だよりを定期的に発行することで意識変革を図った。 ○校務分掌組織は、計画的且つ効率的に組織されていた。 ●コロナの影響で保護者会や町内の会合等による幅広い意見の集約が十分にできなかった。
	②研究・研修	<ul style="list-style-type: none"> ・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○全教職員がICT機器を積極的に利用するよう、さらに研修を深める必要がある。 ○コロナ禍ではあったが、幼保小中一貫教育を意識した会議や講演、作品交流などを行うことができた。
	③保健管理・安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○今年度も毎月発行の「保健」「給食」便りで保護者への啓発を行った。 ○危機管理マニュアルのもと、管理職と教職員でコロナ感染拡大予防も含め毎日保健点検・安全点検を確実にを行い、安全管理に努めた。

④情報管理・施設設備管理	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用 	A	<p>○校内規定の順守の徹底を行い、全職員の個人情報の取り扱いについての意識の高揚が図られた。</p> <p>○施設設備の不備の報告毎に100パーセント早急に対応し事故を未然に防いだ。</p>
⑤地域との連携 開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> ・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校運営協議会の推進 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化 	A	<p>○学校・家庭メール配信により、地域の不審者発生状況等を迅速に発信し、注意喚起とともに地域で見守る環境を作ることができた。</p> <p>○毎月発行の「学校だより」は保護者と地域（民生委員、町内会）に配布、学校に理解と協力をいただいた。また、感染対策を徹底し、学校公開を積極的に行った。</p> <p>○学校運営協議会では現状報告会や学校評価をもとにしての意見をいただき、学校経営に取り組んだ。</p> <p>○学校ホームページを定期的に更新した。</p> <p>○引き取り訓練では保護者と連携した取組ができた。また、芋煮会など地域の行事に積極的に参加した。</p>
⑥幼保小中を一貫した教育	<ul style="list-style-type: none"> ・目指す子ども像の共有 ・15年間を通じたカリキュラムの編成 ・一貫教育推進のための組織づくり 	B	<p>○定期的に開催する中学校区連絡会で、活発な情報交換をすることができた。</p> <p>○小学校乗り入れ授業の取組により、小中間の情報交換や連携をいっそう深めることができた。</p> <p>○小中連携教員が週4日小学校に赴いている。</p> <p>●小中合同引き取り訓練以外、小中合同花植えなど小中で取り組む行事がコロナの影響で昨年度に比べ実施できなかった。次年度は、コロナ禍でもできる取組みを考えていきたい。</p>

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育 活動 に 関 する もの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> ・15年間を通じたカリキュラムの編成、実施 ・教育計画の作成 ・教育活動の評価 ・目標、方針の周知 ・授業時数の配当、確保 	A	<p>○教育計画のもと、指導要領の各教科、領域の授業時数の確保を図ることができた。</p> <p>○学習指導要領の内容をもとに、学習シラバスや年間全体計画、指導計画も予定通り実施できた。</p>
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 ・評価、評定の工夫 ・外部人材の活用 	A	<p>○校内研修としての教科会を行い、学力向上に向け来年度に向けての指導計画の立案、指導方法の改善・工夫に取り組んでいる。</p> <p>○一人一回の研究授業を行い、学力向上に向け、教科としての研修を深めた。</p> <p>○ICTを活用した授業が昨年度に引き続き多く、各教科の工夫改善が図れた。</p>
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> ・全体計画の作成 ・各教科との関連 ・道徳的実践力の育成 ・家庭、地域社会との連携 ・いのちの教育の推進 	B	<p>○道徳部会を中心に教材選定や資料作りを行い、道徳的実践力の育成を行った。また各教科・領域や学校行事との関連を図り、道徳的実践力を向上させることができた。</p> <p>○道徳主任を中心に道徳部会の活発な活動により、指導法改善・評価の仕方等の校内研修を充実させた。また研修計画を策定している。</p> <p>○ローテーション授業を進めスムーズに授業展開する中で子どもの豊かな心を育成することができた。</p>
	④特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・学級活動、学級経営 ・学校行事 ・生徒会活動 	A	<p>○各学級経営計画に基づき、学級経営を行うことができた。</p> <p>○生徒会活動では、教師の支援を極力減らす中で、自主的に実践できた。また、各委員会での活動も積極的に行え、学習環境の向上につながった。より生徒の自治能力を高める取り組みを行っていきたい。</p> <p>○合唱祭を文化会館で行い各クラスの絆が強められた。</p>
	⑤「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・指導内容の充実 ・指導方法の工夫と改善 ・評価の工夫 ・地域の人材・物的資源の活用 	A	<p>○特色ある取組の一つである「命の学習」を通して、調べる・体験する・まとめを実践させた。</p> <p>○3年間を見通し、連続性のある計画的な取組ができた。</p>
	⑥生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・組織的な生徒指導 ・問題行動への対処 ・教育相談、生徒理解 ・いじめ防止対策 ・保護者、地域、諸機関との連携 	A	<p>○生徒指導委員会を中心に生活規律の徹底を学年とともに取り組んだ。子どもを取り巻く時代や環境の変化（特にSNSによるトラブル）に対応した。</p> <p>○生活習慣（生活・学習）の形成を家庭との連携で重点的に行った。生徒指導を通して報・連・相の徹底と共通理解をさらに深めることができた。</p> <p>○不登校の生徒に対して、校長のリーダーシップの下、家庭やさわやか相談員学習補助員等、連携を密にして指導することができた。</p>

⑦キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> ・組織的なキャリア教育 ・指導方法の工夫と改善 ・啓発的経験の充実 ・進路情報の収集・活用 ・職場体験活動 	B	<p>○3年では、昨年度に引き続き具体的な進路選択について担任を中心に指導することができた。</p> <p>○3年生は、自身の進路選択を考えながら、意欲的に授業に取り組めた。</p> <p>○キャリアパスポートの内容検討に取り組んでいる。</p> <p>●1年の職場体験、2年の上級学校訪問がコロナ対応のため、実施できなかった。</p>
⑧特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画、支援計画 ・指導方法の工夫と改善 ・通常学級との交流 ・諸機関との連携 ・校内支援体制の整備 	A	<p>○学校全体で支援できる体制が整っている。また、通常学級で特別な支援が必要な生徒に対して、市教委や教育支援室等やSSWに協力を得て、指導してきた。引き続き研修を深めながら支援をしていきたい。</p> <p>○教育相談部会で特別に支援が必要な生徒の一覧を、就学支援委員会を中心に、情報の共有を行い、一人ひとりにあった支援方法を確認、実施している。</p>
⑨学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画、支援計画の作成 ・図書館補助員の活用 ・諸機関との連携 ・図書館の整備 ・図書館利用の工夫 	A	<p>○司書教諭と図書館補助員による整理がなされ、昼休みや放課後の貸し出しなど充実した経営がなされている。</p> <p>○季節や長期休業に即した蔵書コーナーの設置や掲示物の充実に取り組み、一人への貸し出し数を増やし図書室に足を運ぶ生徒が増えた。</p> <p>○空き教室を活用して、閲覧室を開設した。生徒が本と触れ合う機会を増やすことができた。</p>
⑩情報教育	<ul style="list-style-type: none"> ・教育計画の作成 ・校内研修の充実 ・ICT機器の積極的な活用 ・情報モラル教育の推進 	B	<p>○指導計画をもとに、パソコンの扱い方及び情報モラルについて考えさせる場面を増やした。</p> <p>●ICT機器の積極的な活用を図ることができた。誰でも活用できるように、またリモートに対応できる授業実践研修計画をさらに進める必要がある。</p>
⑪人権教育	<ul style="list-style-type: none"> ・全体計画の策定 ・各教科との関連 ・人権感覚の育成 ・校内研修の充実 	A	<p>○計画的に社会の授業を中心に、「ビデオ視聴」や「被差別部落や差別等の資料」を通して人権に対する意識の高揚を図った。</p>

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
Ⅲ 特色 ある 学校 づくり	学力の向上	基礎・基本の充実 校内研修	A	○各教科の小テスト、単元テスト、各種コンテストを実施し、基礎・基本の定着を目指すことができた。 ○校内研修も授業改善に役立った。さらに学力を向上させるための授業改善を進めていく。 ○「授業の5原則」の徹底により、授業規律が高まり、学力の向上につながった。 ○小中一貫教育を通して、標準カリキュラムを確認し系統性を持たせる授業が複数教科で実践できた。 ●家庭学習の定着が徐々に図られてきた。小中の系統性をより意識した授業実践を進めていきたい。
	基本的な生活習慣の確立	・あいさつ ・時間を守る ・学習環境の整備 ・授業の5原則	A	○「礼を正し」「場を清め」「時を守る」の一層の定着が見られた。また、掲示物や机や椅子の整理整頓など学習環境の整備も意識して取り組むことができた。 ○授業の5原則がどの教室にも掲示されており、定着が図れた。(授業の用意・チャイム席・あいさつ・忘れ物・無駄話をしない) ○時計を意識した行動が図れ、集会等では静かに整列でき開始することができた。 ○放課後の教室が整理整頓されている。 ○「無言清掃」を徹底し、個々が主体的に清掃に取り組む心の育成を図った。
	健康・体力	・健康集会 ・部活動 ・性教育	A	○「命の学習」で命の大切さや健康に過ごすための意識を高めることができた。

<p>5 総合評価 (学校関係者評価を含む)</p> <p>○自ら学び【基礎学力】 県学力・学習状況調査からも、自ら考え、学ぶ意識の向上が見られた。</p> <p>○豊かに【規律ある生活】 礼を正す、場を清める、時を守るなどの基本的な事項については、ほとんどの生徒がしっかり取り組もうと意識している。</p> <p>○たくましく【健康・体力】 コロナ禍の中、毎日の健康観察、感染拡大防止を意識した教育活動において、体育の授業や部活動等できる範囲で工夫しながら活動できた。日常の歯磨きなど活発に行われた。</p> <p>○「学び」と「心」【子ども教育連携推進】 中学校区における連携の取組をさらに充実させながら、交流活動等を通して、小中の円滑な接続を図られるよう推進していく。</p> <p>○全教職員が「豊かな心と学ぶ意欲を持ち広い世界でたくましく生きる生徒」を目指し、計画的に研修に取り組んだ。また幼保小中一貫教育を柱に、学校間・教職員間の情報共有の中で、課題を考察・整理するなど連携し取り組みの成果が現れてきた。</p> <p>○各学習状況調査の結果から学習に伸びが見られ、学力の向上が図れた。今後も調査・分析を充実し継続して取り組んでいきたい。</p> <p>【学校関係者評価】</p> <p>○昨年度に引き続き、保護者、地域の方から高い評価をいただいている。学習面、生活面において、いまだ課題も多いが、学校全体で組織を上げて取り組むことが重要である。教職員個々に常に課題意識を持つこと、そして課題解決能力を身につけ、危機管理を常に意識し目指す学校像・生徒像に向けて取り組んでいきたい。また、不登校生徒の対策、学力の低い生徒への対応、新学習指導要領への対応、感染症対策等、今後も、全教職員で家庭・地域と連携を図りながら、課題解決のために、計画的・組織的に対応し、取り組んでいく。</p>
<p>6 次年度の改善策</p> <p>○校内の研究組織を中心に、より一層の研修に励み、学校全体で推進していく。</p> <p>○校内での取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力の向上は、今後も学校としての重要課題として捉えていきたい。また、研究委嘱を受け新田中学校区で更なる連携を図り、学びの連続性や躓きを精査し、合同研修を計画しながら授業の質の向上を図り、15ヶ年の学びのカリキュラムを実践していく。 ・生徒指導に関しては、生徒との関係も向上し、信頼関係も強くなり安定した生徒指導につなげている。不登校の生徒が少しでも減るよう、学校全体の課題として考え、保護者や関係機関との連携を密にし、教育相談の体制を充実させ、取り組んでいく。生徒に寄り添い、対応すること、そして、さらに組織マネジメントを進め、生徒の自主自立の支援をしていく。そのために教師側の指導力のさらなる向上、共通理解・共通行動を図り、気を緩めず工夫・改善及び研修の取組をしていく。